

環境福祉学会

News Letter

ニュースレター AUG 2008

9

目次

第4回年次大会にご参加下さい！	1
第10回事例研究会①	2
第10回事例研究会②	3
第4回年次大会ポスターなど	4
組織及び役員一覧・事務局だより	4

環境福祉学会 事務局 東京都港区南麻布5-16-6 コウセイ広尾3F
創造学園大学 東京本部内
TEL. 03-3447-3321 FAX. 03-3447-3681
http://www.kankyofukushi.jp
E-mail: info@kankyofukushi.jp

環境福祉学会第4回年次大会にご参加下さい！

環境福祉学会2008は、「次世代を育む環境福祉」をメインテーマとして、来る11月9日(日)東京において開催されます。主なプログラムの案は下記のとおりですが、特に元環境大臣の小池百合子先生に特別講演をお願いしてご快諾いただき、また元環境事務次官、本学会副会長の炭谷茂先生には基調講演をしていただきます。会員の皆様に主題にとらわれずに、一般演題にも多数の方々に応募くださり、大会にご参加頂いて、盛り上げて下さることをお願い申し上げます。なお一般演題申し込み締め切りは8月30日です。(大会実行委員長 鴨下重彦)

日時：平成20年11月9日(日) 10:00~17:00

会場：東京大学医学部鉄門記念講堂

プログラム：

1. 特別講演：小池百合子 衆議院議員、元環境大臣
「環境を守る 社会を守る」
2. 基調講演：炭谷 茂 恩賜財団済生会理事長、元環境事務次官
「環境福祉学から見る子どもの世界」

3. パネルディスカッション

テーマ：「危機にある子どもの環境にどう対応するか」

コーディネーター： 鴨下 重彦 (東京大学名誉教授)

パネリスト・演題(仮題)：

「高層住宅における育児の問題」 織田 正昭 (東大医学部母子保健学)

「保育における食育の課題」 寺田 清美 (東京成徳短期大学教授)

「シュタイナーの教育理念」 子安美知子 (早稲田大学名誉教授)

「幼児期の体験学習の重要性」 永井 伸一 (独協中学高等学校長)

コメンテーター： 炭谷 茂

後援団体：環境省、厚生労働省、文部科学省、日本経済団体連合会、日本医学会
(予定) 日本環境学会、日本小児科学会、日本保育学会、日本学校保健会
日本保育園保健協議会、ほか

「寿地区のリサイクル活動について」

医療法人 ことぶき共同診療所
精神保健福祉士・社会福祉士 大平 正己

まず、横浜の寿地区というのは、日本での三大寄せ場のひとつで、大きくは五大寄せ場があります。一番有名なのが、東京の山谷地区で、次が大阪の西成地区、3番目が横浜の寿地区です。そのほかに名古屋駅の前にある笹島地区、九州の福岡にある築港地区があり、五大寄せ場ということになります。

寿地区というのは、孤立したところで、横浜スタジアムがあり、中華街があって、ある意味、繁華街ですが、一般の人は立ち入ってこない真空地帯のような場所です。

ですからごみを捨てやすい。市内各地、あと業者の方がトラックなどで来て、使えなくなった冷蔵庫やたんす、車など、この間は船が1隻捨ててありましたが、ボンと捨てていく。これを何とかしなければいけないというのが町の課題になっていて、それを何とかしようということで、捨てたごみをリサイクルできたらいいのではないかとということの一つ考えました。

そこで、今年4月に、特定非営利活動法人寿クリーンセンター立ち上げました。事業としては、先ず障害者等を対象とした廃家電手分解リサイクル事業です。2番目が、リサイクルショップの運営です。3番目が引越し・清掃、4番目が職業技能訓練、5番目が仕事の掘り起こし、6番目が環境問題の研究事業です。大仰に書いてありますが、不法投棄をどうしようかという話をしていこうということです。7番目が情報提供事業、8番目がその他必要な事業ということです。

参加対象者としては、基本は寿地区に住んでいる障害者の方です。その中でもメインのターゲットにしているのは、アルコール依存症、薬物の回復者の方になっています。この方々をなぜメインのターゲットにしたかということ、病気の特性として、アルコール依存症はすごくまじめな方がなる病気です。ものごとをカチカチやる、約束をしっかり守る。だから働くことに凄くプレッシャーを感じる方々です。

ぼくらなんかだと、たとえば仕事でちょっとミスをして、「まあ、いいか」と済ませてしまうところが済ませられない。くよくよ悩んでお酒を飲んでしまう。人との接触にすごく障害を持っている方々ですが、能力はすごく高い。一つのことをやるとな



大平 正己 氏

ると、徹底的にやりきることができる人達なので、この人たちを中心に固めてみようということで、その人たちに声を掛けて、集まってもらっています。

お客さんはどういう人たちになるのか。実際に始めてみると、高齢者の方で部屋の模様替えができない、荷物を捨てたいけれども重たくて運べない。粗大ごみであっても、粗大ごみのシールを買ってごみ出し場に出すのですが、ごみ出し場までものを持っていけないという高齢の方はけっこう多くいます。そういう高齢者の方が、一つ顧客層としてこれから増えていくと思っています。

もう一つが、生活保護を受けている方です。生活保護を受けていて、病院に長期入院してもう帰ってこない。そうしたら部屋を空けなければならない。その部屋を引き払う作業、あとお部屋で亡くなった方の荷物をどうするかというときに、私たちが出て行って引き払う。一般の会社で、最近、遺品管理などという宣伝をかけているところがありますが、そういう作業です。これが増えています。ですから生活保護の方と高齢者の方というのが一つの顧客層になっていくのだろうと、予想を立てて事業計画を立てています。

寄せ場というのは、いろいろな人間を受け入れる不思議な力があります。一般の地区だと大問題になるような人が、寄せ場の中なら普通の人として扱われるというので、問題なく暮らせるという不思議な力があります。そういう人たちを受け入れていく役割が寄せ場にあるのではないかと考えて、今後展開していきたいと考えています。

始まったばかりの事業なので、そんなに目立った売上げもなく、どうやって毎日仕事を取ったらいいか、商品を回したらいいのだろうかと思わばかりの状態ですが、とにかく動き始めて依頼も来はじめて、何とか頑張っていこうと思っています。

「NPO地球船クラブの活動について」

NPO地球船クラブ
事務次長 小田川 知展

現在、私たちはNPO地球船クラブとして、地球の環境に何ができるか、障害者の雇用のために何ができるか、そして児童教育、リサイクルの教育をするために何ができるか、この3本の柱で動いております。

人間だけでは、幸福になれない。環境問題は責任や義務のように硬く難しく考える前に、思いやりの問題ではないかと思えます。未来世代へ愛情と尊敬と想像力をもって、今、考え行動することではないかと思えます。

現在、私どもが一番だと思っているのが、資源を大切にしていこうという趣旨で、環境問題、障害者の雇用、次世代の児童教育を行うという3品目を並べており、この中に私たちはリサイクル施設というものを入れています。このリサイクル施設の中に福祉の障害者の雇用、環境では主にプラスチックの処理ということになっています。教育に関しては、この施設に見学に来る小学校を対象にしています。

実際に山形県新庄市で行われている取り組みでは、PSPトレー製造業者とスーパーマーケットで、出てくるごみに対する回収するボックスを作りそれらを回収して、施設に運んでいます。その回収したものを、障害者の方に分別や洗浄する作業をやっていただきペレットにしています。そのペレットは、製造業者さんに戻して、またトレーに戻して、循環型社会の構築を行っています。

この新庄市の授産施設友愛園以外で動いているケースは、本年4月からスタートした、愛知県東海市でのさつき福祉会（いまはエコラ東海）、京都のみずなぎ学園と授産施設地球クラブ、三重の授産施設みどりの家、横浜の授産施設同愛会の6カ所が、このシステムを採用しています。

今回新たに、お話をいただいているのが、東京の江東区と山口県萩市です。萩市のほうではPSの回収率、年間300トンという基準をクリアする条件について、回収が見込めるということですので、現在場所探しなどを行っています。江東区のほうは300トンというかたちでは出てきていないのですが、しっかりとしたかたちが提示でき次第、どんどん建設していこうというお話をしています。

本事業の今後の展開ですが、地球船クラブとして



小田川 知展 氏

は、地球環境に対してどのようなアクションを起こしていくか提案しています。地域住民が支えるリサイクルシステムの構築が重要で、まずそのへんのご協力をいただきたいと思います。

もう一つ、江東区のほうですが、高齢者の雇用をこれから行ってほしいという提案が新しく出ました。いままでは、障害者の雇用でしか見ていなかったのですが、これからの日本の社会を考えると、高齢者のほうも増えていく。高齢者の方と障害者の方が一緒になって楽しくできる施設を作ってほしいという要望がありましたので、いまこちらのほうも検討しており、どのようなかたちで高齢者の方と障害者の方のコラボというかたちの施設ができるかということを考えています。

もう一つは、リサイクル意識の高まりを推進する環境教育の実践です。こちらのほうは1施設ができたなら、その周辺にある小学校に施設に見学に来ていただきます。来ていただいた小学校でも回収をしようと思っています。小学校の子どもたちが家庭から出るPSPトレーを学校に持って行って、少子化の時代ということで教室が余っているの、そこで一時保管をしていただいて、それを回収しに行く。回収したものは、先生にしっかりと管理していただいて、先生の指導のもと、PSPトレーの回収、魚箱の回収を行い、少しでも資源を大切にしていこうという児童教育をさせていただきたいと思っています。

これらは、いち早くというかたちで言われていますが、まだこちらのほうがしっかりとしたかたちの事業計画が出ていませんので、これからPSPトレーの回収をどれだけ見込めるかという採算ベースに合わせられるよう、この施設を建設していきたいと思っています。これから皆様のご協力も必要となりますので、ぜひよろしくお願いたします。

www.kankyofukushi.jp

環境福祉学会 2008

第4回年次大会(総会)

平成20年 **11月9日**(日)

大会テーマ 次世代を育む環境福祉

日 時 平成20年11月9日(日)

会 場 東京大学医学部鉄門記念講堂

スケジュール 10:00~12:00 一般研究発表(3会場の予定)
12:00~13:00 総 会



13:00~13:40 特別講演
小池百合子氏(元環境大臣)



14:00~14:30 基調講演
炭谷 茂氏(本学会副会長)

14:30~17:00 パネルディスカッション
「危機的な子どもをめぐる環境にいかに対処すべきか」
17:30~19:00 懇親会

参加費用 大会参加費 5,000円(昼食代含む)
懇親会参加費 4,000円

実行委員長 鴨下 重彦(東京大学名誉教授)

第4回年次大会事務局

〒110-0015 東京都台東区東上野3-32-2 廣瀬ビル4B 小児医学研究振興財団内
TEL 03-5818-2601 FAX 03-5818-2602 E-mail:shouni-iken@jfpr.jp

大会ポスター(案)

一般演題募集中

21世紀に入って、少子高齢化が進み、人口減少社会となった我が国では、少なくなった子どもをめぐる、いじめや虐待の増加、あるいは子どもが犯罪の被害になる一方で、少年非行も増加し、犯罪の低年齢化が進むなど、子どもの深刻な問題が社会の視聴を集めています。子どもをめぐる環境福祉がますます重要性を増しております。そのようなことから、今大会の主題を「次世代を育む環境福祉」と致しました。

学会員の皆様には是非ご演題をお申し込み頂き、お誘いあわせの上、多数ご参加下さるよう、お願いいたがたご案内申し上げます。

一般演題申し込み
2008年8月30日締切り
本学会事務局まで

環境福祉学会組織及び役員一覧

会 長	江草 安彦	社会福祉法人旭川荘名誉理事長/川崎医療福祉大学名誉学長
副 会 長	鴨下 重彦	(財)小児医学研究振興財団理事長/東京大学名誉教授
	炭谷 茂	前環境事務次官/社会福祉法人恩賜財団済生会理事長
	堀越 哲二	堀越学園理事長/創造学園大学学長
	伊藤 達雄	社団法人環境創造研究センター理事長/名古屋産業大学名誉学長
理 事	松寿 庶	社会福祉法人全国社会福祉協議会常務理事
	波田 幸夫	環境新聞社会長
	長田 逸平	社団法人日本経済団体連合会事務総長付
	藤田 八暉	久留米大学教授
	土井 康晴	社団法人生活福祉研究機構専務理事
	泉谷 直木	アサヒビール株式会社常務取締役
	安川 緑	金沢大学医薬保健研究域保健学系准教授
	児玉 剛則	社団法人環境創造研究センター専務理事
	寺田 清美	東京成徳短期大学教授
監 事	永井 伸一	獨協中学・高等学校校長/獨協医科大学名誉教授
	平野 寛	杏林大学名誉教授
事 務 局 長	小峰 且也	環境新聞社取締役
事 務 局	酒井 剛	環境新聞社広告・事業担当次長
	王 豊	創造学園大学東京本部所長

事務局 だより

環境カウンセラー全国連合会の6月の総会で、新会長に本学会の炭谷茂副会長が就任した。全国に4000人いるという環境カウンセラーは、仕事が少なく困っているのが実情。環境と福祉を連携して何か新たな仕事作りができないかと思う▼2007年度の本学会の研究・事業活動報告書が近く出来上がるが、それを見ると事例研究会やセミナー・シンポジウムなどいろいろ活動してきたなーと自己満足。ただ、研究事例の積み重ねはできたものの、体系化はまだ道半ば。これからの仕事だと思ふ▼本学会の企業部会では、環境福祉ビジネス研究会を立ち上げる予定だが、その準備のための環境福祉文化・思想ビジネス研究会を発足させた。環境福祉ビジネスを時間・空間軸を広げて文化や思想、宗教の視点から検証し、新たな行動原理を探ろうというもの。8月12日に第二回目を開くので関心のある方はご参加ください。